

# 第14回 障害のある人もない人も共につくる緑区民のつどい 開催しました 「知ることにつながるみどりの輪～2025」

## 「障害者と区民のつどい」ブース

### 盛況のうちに終了

令和七年十月二十五日（土）、緑区区民まつりが開催され、緑区自立支援連絡協議会は「障害者と区民のつどい」ブースを出展しました。（当日は途中からの雨が予報されており、どれほどの方にご来場いただけると心配されましたが、幸いにも天候は大きく崩れることなく、終了間際に少し雨が降った程度に留まりました。おかげさまで、非常に多くの方々にブースへ足を運んでいただくことができました。

昨年引き続き3回目の参加となる今回は、「知ることにつながるみどりの輪～2025」を共通テーマに掲げました。「障害とは何か?」「それに関わる事業所はどのようなところがあるか?」など、一人でも多くの方に興味関心を持っていただく「きっかけ」となることを目指し、趣向を凝らした4つの企画（①福祉体験、②福祉マルシェ、③みどりのクリエイター展、④ステージ発表）を実施しました。



## 多彩な福祉体験で深まる理解

「福祉体験」では、障害の特性を疑似体験できる3つのブースを設け、多くの方に障害のある方の日常や感覚の一部を体感していただきました。

**視覚障害体験** 昨年に引き続き、ガイドボランティア団体「かがやき」の皆様（6名）に多大なるご協力をいただきました。アイマスクをした状態で見えないことへの不安を感じながら、狭い道や点字ブロックの上などを歩く体験、さらに今年はガイドボランティアさん発案の目が見えない状態の食事体験を行いました。参加された方からは「視覚障害の方の不安や恐怖を感じる事ができた。」「真つ暗な世界のこわさ、大変さを知り、サポートを少しでも出来たらいいなと思いました。」といった感想が寄せられました。ガイドボランティアの皆様からは、歩行の誘導だけでなく、点字ブロックの持つ意味や、視覚障害のある方へお声がけする際のサポート方法など、実践的な知識も丁寧に伝えていただきました。



**知的障害体験** 「りんご」はすぐに絵で描けても、「ちゃん」と「ちよつ」といった抽象的な言葉を絵で表現しようとすると、人によって捉え方が異なり、伝えることが難しいことを体験。また、軍手を二重にした状態で折り紙を折る体験では、指先が思い通りに動かないもどかしさを実感していただきました。加えて、その状態（上手くできない状態）で「早くして」「なんでできないの」といった心無い言葉をかけられると、いかにモチベーションが下がるか、逆に前向きな言葉がけがいかに大切かを学びました。

**精神障害体験** 幻聴や感覚過敏のある方がどのように世界を感じているかを体験できる動画や、お子様にも分かりやすいアニメーション形式でパニック障害・不安障害を解説する動画をVRで視聴していただきました。昨年度よりも視聴用VRの台数を増やしたことで、より多くの方にじっくりと体験・学習していただくことができました。「幻聴体験で心がぞわっとした」「ヘッドホンをしている理由が分かった」など、具体的な理解につながった様子でした。

## 賑わいと笑顔あふれる「福祉マルシェ」

緑区内の福祉施設が心を込めて作った製品を販売するマルシェには、昨年の3団体から倍増となる6団体（障害児サークル colorfullover、アイビス徳重、ハレルベース、ウル、クララ、ハッピースマイル24）にご参加いただきました。各ブースには、手作りのサーターアンドギーやベーグルといった食品から、本格的なレザー製品、美しい絞り製品雑貨、可愛らしい小物まで、多種多様な商品ラインナップが並びました。さらに、今年は製品販売に加えて、障害児サークル colorfulloverさんによるブローチづくり体験、アイビス徳重さんによる招き猫の絵付け体験といったワークショップも実施され、子どもから大人まで多くの方がものづくりの楽しさに触れ、大きな賑わいを見せていました。



**【出展事業所からのコメント】**  
「初めての参加で緊張がありましたが、終わってみるとあっという間

で、販売ブースも沢山のお客様が来られ、他事業所とも交流ができ、ぜひ来年も参加したいと思いました。「たくさんのお客様に商品を手にとって頂き、また事業所の取り組みについても多くの方に興味を持って頂きました。利用者さんも販売を通してお客様と接し、とても充実した一日を過ごす事ができました。」「想像よりも人が多く賑わっていました。販売はたくさんの方にみていただけました。」



## 個性輝く「みどりのクリエイター展」

就労継続支援Ⅱ型事業所やデイケアを利用されている方々による絵画や、放課後等デイサービスに通うお子さんたちが力を合わせた共同作品など、約30点の個性あふれるアート作品を展示しました。来場された方々は、一つひとつの作品に込められた力や世界観に、足を止めてじっくりと見入っていました。また今回は特別に、緑区にもゆかりがあり、今後の活躍が一層期待されている南区在住の小学6年生「けんたくん」の書も展示していただき、会場に彩りと力強さを加えてくれました。



## 元気いっぱい「ステージ発表」

好評だったステージ発表を、今年も実施しました。緑区内の放課後等デイサービスや児童発達支援事業所に通う児童の皆さんと職員の方々、そしてサポート役として桜花学園の学生ボランティアさんたちが参加。総勢30名以上の方々がステージに上がり、練習の成果を披露してくれました。演目は「エビカニクス」と「ジャンボリズムキー」の2曲。事業所ごとにお揃いの「シャツ」を身につけ、一体感のあるステージを演出。踊ることが難しい児童さんは打楽器を曲のリズムに合わせて鳴らすなど、それぞれができる形で参加し、会場全体を巻き込む元気いっぱいのパフォーマンスに、観客席からは温かい拍手と拍手が送られました。



## 多くの反響をいただきました

心配された天候にも恵まれ、多くの方にご来場いただいた結果、来場者アンケートでは、多くの貴重なご意見をいただきました。ご協力に心より感謝申し上げます。お寄せいただいたご意見の中から、いくつか抜粋してご紹介させていただきます。



### 【来場者の声（一部抜粋）】

- 「なかなか体験できない事ができて、ありがとうございました。」
- 「障害を持つ人の気持ちがよくわかった。」
- 「障害を持つ子供たちへの理解につながる動画を見て、とても良いきっかけになりました。」
- 「目の不自由な方の不安な気持ちが、よくわかった。」
- 「知ってるようで、障害のある方のことを理解していなかったと改めて知った。」
- 「点字ブロックにドキツとしたり、目隠しでの体験で、見えない時にイメージした物の実際のサイズの違いや作業のしにくさを改めて知れたこと。」
- 「幻聴体験で心がぞわっとびっくりするような感じがあり参考になりました。」
- 「パニック・不安等が分かった。」
- 「気づきそうで、気づかない事を知る事が出来て良かったです。」
- 「自分でも気になっていたり、同じようなことがあるので、一人ではないんだという安心感がありました。」
- 「いつも気になっていた。ヘッドホン（イヤーマフ）をしている理由が分かった。」
- 「どの様に感じているのか分かって、対応の参考になった。」
- 「不自由さを体験できました。」
- 「目が見えない体験が出来て、真っ暗な世界のこわさ、大変さを知り、サポートを少しでも出来たら良いなと思いました。」

## 温かいご支援に感謝します

今回の企画実施にあたり、「多くの方が障害福祉に興味関心を持つきっかけとなるように」という本企画の趣旨に、多くの事業所様よりご賛同をいただき、233,000円もの協賛金を賜りました。皆様の温かいご支援が、これらの取り組みを実現する大きな力となりました。心より感謝申し上げます。ご来場いただいた区民の皆様、ご協力いただいたボランティアおよび関係者の皆様、そしてご協賛いただいた事業所の皆様、誠にありがとうございました。また次回も会場でお会いできることを楽しみにしております。